

日野市社会福祉協議会 法人化50周年記念誌

～ みんなでつくる豊かなまち 日野 ～



社会福祉法人 日野市社会福祉協議会

❧ 50周年おめでとう ❧



昭和41年竣工当時の中央福祉センター



中央福祉センターを会場に産業祭開催



昭和43年頃
中央福祉センター前の公園で遊ぶ子どもたち



昭和48年頃の中央福祉センター



昭和54年4月 中央福祉センター内の図書館



社会福祉士養成実習の学生発表



ボランティア交流会にて
学生ボランティアによるアトラクション



近況を語り合うボランティア



権利擁護センター日野開設記念



在宅高齢者ケアサービス会員のバスハイク



視覚障害者体験をする中学生(出張福祉講座)



健康ぴんしゃんウォーキング



目 次

ご挨拶

社会福祉法人日野市社会福祉協議会 会長	奥 住 日出男	4
---------------------	---------	---

祝 辞

日野市長	大 坪 冬 彦	5
日野市議会 議長	西 野 正 人	5
社会福祉法人東京都社会福祉協議会 会長	青 山 侑	6
日野市民生委員児童委員協議会 会長	山 田 哲 道	6
日野市赤十字奉仕団 委員長	杉 山 紀 子	7
日野市老人クラブ連合会 会長	平 出 實	7

各係の事業

総 務 係	8
地域支援係	10
ボランティア係	12
在宅サービス係	14
権利擁護係	16
しごとサポートひの	18

歴代会長	19
------	----

組織体制	19
------	----

近年のTopics!

人を育み、福祉のまちづくり	20
地区社協の取組み ～地域のチカラ 無限大∞～	22
みんなといっしょの運動会～スポーツを通じて広がる障害者の社会参加～	24
地域住民と共につくる防災・減災の取組み ～人とのつながりが命を守る力になる～	26
市民後見人が活躍しています	28
成年後見制度のネットワークが広がっています	29

50年のあゆみ	30
---------	----

みんなのメッセージ	34
-----------	----



ご挨拶



地域福祉の更なる向上をめざして

“みんなでつくる豊かなまち 日野”

～助けられたり助けたり～

社会福祉法人
日野市社会福祉協議会

会 長 奥 住 日出男



日野市社会福祉協議会は、日野市をはじめ多くの関係者のご協力を賜りながら、本年結成50周年を迎えました。顧みますと、日野市社会福祉協議会（以下、日社協という）は、高度成長期時代の昭和36年12月に任意福祉団体として発足、以降先人達 노력によりまして昭和42年4月に法人化され今日に至っています。この間の活動は、社会情勢や日社協を取り巻く環境の変化等により幾多の困難に遭遇されたことと推察いたしますが、ボランティアセンターの発足（昭和49年12月）・会員募集・赤い羽根共同募金・歳末助け合い運動などの事業は、現在も日社協の重要な取組みとなっております。

現在、日社協の活動は平成27年4月に策定した第4次地域福祉活動計画に則り推進されています。主要な取組みは①暮らしを支える在宅福祉サービスの充実②介護予防活動の支援③権利擁護事業の推進④日野市ボランティアセンターの充実などですが、日社協の理念である住民主体の活動を推進するため、住民に身近な圏域での活動を目指し「地区社協」を平成28年3月に設置、住民の繋がりが高まることを目指した交流の場「サロン」の増設、ボランティア活動推進事業では、災害時ボランティア支援センターとしての機能充実を図るために「災害支援事業」の実施などに取組んでいます。一方、平成28年3月に制定された改正社会福祉法の施行に伴い、日野市内に存在する社会福祉法人や福祉施設との連携・協働で公益的な取組みを実施すべく、現在ネットワーク化を進めています。

少子高齢社会が進む中、家族の変化や孤立を背景とした生活課題の深刻化、多様化する生活支援ニーズの問題など課題が山積する今日、日社協の果たすべき役割と責務はますます重要になってきています。

50周年を節目として、これからも職員一同地域福祉の更なる向上をめざして尚一層の努力をしまいる所存です。皆様には今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日野市をはじめ関係諸団体・各組織・市民各位の益々のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、日野市社会福祉協議会を代表しての挨拶とさせていただきます。



祝

辞



日野市長

大坪 冬彦

日野市社会福祉協議会が、この度、法人化50周年を迎えられましたことを心からお慶びを申し上げますとともに、貴会の今日までのご発展の礎を築かれたすべての関係者の皆様に深く敬意を表します。

この50年の間に、私たちのまちは大きく様変わりしました。ちなみに、昭和42年当時の日野市の人口は7万5千人余でした。50年後の今日では、18万人を超え、2.4倍となりました。人口構成比は、0歳から14歳の年少人口は24.7%から13.0%とほぼ半減しているのに対し、65歳以上の老年人口は3.6%から24.4%と6.8倍に、75歳以上の方は0.9%から12.1%と実に13.4倍に、それぞれ増加しております。まさに少子高齢化という現象が如実に現れています。

今後の地域福祉の大きな課題は、少子高齢化への対応です。私たちのまちをより一層子育てのしやすいまちとし、ご高齢の方や障害をおもちの方々が地域で暮らしやすいまちにしていかなければなりません。また、社会的に様々な困難を抱える方も含めて、地域で支え合っていく仕組みを創っていくことが大切です。

行政による「公助」の仕組みだけでは、このようなまちの未来は築けません。地域で暮らす住民の方々と地域で事業を営む様々な団体が目的を共有して、「諸力融合」で、新しい「共助」のかたちを創っていく必要があります。

貴会の「強み」は、地域福祉についての高い志とその専門性に加え、長年にかけて培われた地域ネットワークにあると考えております。

貴会の「強み」を活かして、「ともに支えあい 安全・安心で元気に暮らせるまち 日野」のため、ご尽力いただくことを期待します。

結びにあたり、貴会のさらなるご発展と会員及び関係者の皆様のますますのご活躍とご健勝をご祈念申し上げまして、お祝いのご挨拶いたします。



日野市議会議長

西野 正人

日野市社会福祉協議会が50周年を迎えたことを心からお慶び申し上げます。

日野市社会福祉協議会が法人化された昭和42年は、東京オリンピックが開催されてから3年を経過した時でもあります。このころは戦後の復興期から高度経済成長期へ移り、戦後の貧しい時代から、誰もが生活の豊かさを求められる時期でもありました。

このような中で日野市社会福祉協議会が誕生し、今日まで市民の福祉向上に資する各種事業を行っていただき、感謝申し上げます。

これまでの50年間の社会を見ると、家族形態の変化では、核家族化が進み、独居高齢者が増加しています。この傾向は今後も増加していきます。また、地域では、隣人の名前も知らなければ、話をしたこともない、自治会の崩壊など、地域や隣人とのつながりは希薄化しています。経済や生活水準は向上している一方、貧困が顕著化しているなど、問題や課題は年々多くなる一方です。

その時代の問題や課題、個々のケースに対して、日野市社会福祉協議会は行政や民生委員、他の組織などと連携を取って問題の解決にあたっていました。

今日は、個別の案件の複雑化と増加に伴い、行政だけの力では、これらの問題解決は難しくなっている状況です。

福祉の事業の多くは、地域の力やマンパワーを必要とするものが多く、人材の育成や活用、各団体との連携など、福祉の「接着剤」としての機能。それとともに、協力者や組織間の連携をうまく回すための「潤滑剤」としての機能も、今後伸ばしていただきたいと思います。

福祉は、困難な案件や辛い案件などが多いですが、今後も職員の皆さんの熱意と笑顔をもって、真に福祉を必要とする方へのご支援と市民の福祉の向上に寄与していただくことをお願いいたします。

最後に、日野市社会福祉協議会の益々のご発展と関係者の皆さまのご健勝を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝

辞



社会福祉法人
東京都社会福祉協議会
会長

青山 脩

日野市社会福祉協議会が地域福祉の拠点として、ここに法人化50周年という記念すべき時を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

日野市社会福祉協議会は昭和38年に設立され、昭和42年に法人格を取得以来、地域を取り巻く環境が大きく変わる中で、半世紀に亘って関係者の積極的な参加を得て、住民主体の地域福祉の推進に尽力して来られました。

平成27年度に地域住民や関係機関、行政、学識経験者などの方々とともに策定された第4次日野市地域福祉活動計画においては、「みんなでつくる豊かなまち日野～助けられたり助けたり～」を基本理念として、暮らしを支える在宅福祉サービスの充実や地域の話し合いの場づくり、相談支援機関としての機能向上など、社会福祉協議会として地域で果たしていく役割を示されました。

また、東日本大震災を機に地域住民・有識者を中心として設立された「みんなでつくる日野の防災プロジェクト委員会」では、防災訓練の実施、防災活動を通じたネットワークづくり、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練、地域課題を元にした防災・減災シンポジウムの開催など、積極的に防災・減災活動に取り組んでいらっしゃいます。

ここ数年、生活困窮者自立支援法の施行、介護保険制度、社会福祉法の改正など、各制度において、“地域づくり”が重視されています。また、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域共生社会の実現が目指されており、区市町村社会福祉協議会への期待がますます高まっております。私ども東京都社会福祉協議会といたしましても、皆様とより緊密な連携のもとに地域福祉推進に向けた事業を進めてまいりたいと存じます。

法人化50周年を迎え、日野市社会福祉協議会が、これまでにもまして、地域住民を主体とした関係者・機関・団体との連携、協働による活動を推進し、一層の飛躍をとげられますよう祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



日野市民生委員
児童委員協議会会長

山田 哲道

この度、日野市社会福祉協議会が法人化50周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。昭和42年に社会福祉法人として認可されて以来、地域に暮らす皆様のほか、民生委員・児童委員、社会福祉施設等の社会福祉関係者、保健・医療・教育等の関係機関の参加、ボランティアの協力のもと、日野市社会福祉協議会は、地域の人々が住み慣れたまちで安心して生活のできる「福祉のまちづくり」の実現を目指したさまざまな活動を行ってきました。本格的な少子高齢化社会が到来し、私たちが暮らす地域社会においても核家族化や家族意識の変容が進んでいます。地域社会におけるつながりが薄れ、社会での孤立感が深まる中で、将来への不安をはじめ、さまざまな生活課題、福祉課題を抱える人々が増えてきています。私たち民生委員・児童委員は、高齢者、独居の方、寝たきりや障害をもった方々の訪問や、子育て相談等の活動を行っています。その中で課題を抱える人たちを行政等の関係機関につなげていますが、特に社会福祉協議会では速やかに対応していただいていることに感謝申し上げます。日野市社会福祉協議会では、平成27年度～平成31年度第4次日野市地域福祉活動計画『みんなでつくる豊かなまち日野～助けられたり助けたり～』を策定されました。子どもから高齢者まで生活に支援を必要とする人もそうでない人も、できる範囲でできることを積極的に参加する社会を目指すというこの目標達成のため、社会福祉協議会との情報共有や連携をより一層強化していきたいと思います。貴協議会がさらに飛躍され、住民福祉の拠点としての真価を遺憾なく発揮されることを期待するとともに益々の発展を祈念して、お祝いの言葉といたします。



祝

辞



日野市赤十字奉仕団
委員長

杉 山 紀 子

日野市社会福祉協議会が法人化結成50周年を迎えられました事に心からお慶び申し上げます。

ひと口に50年といえば、半世紀その歴史の中に幾多の変遷があったかも知れませんが、社会福祉協議会の皆様の熱意が素晴らしい原動力になり、今日の発展に繋がってきたと思います。

「みんなで作る豊かなまち日野 助けられたり助けたり」を基本理念とする社会福祉協議会の地域福祉・在宅福祉事業、また、日頃から災害に備える「日野市民でつくる防災、減災シンポジウム」など、多様にたゆまぬ事業を展開し、地域福祉活動の拠点としての役割を最大限に発揮されています。

誰もが長い人生の間には、生活上の困難に出会うことがあります。そうした困難を支え合って乗り切るために、人々の信頼と安心して相談ができる場所、それが社会福祉協議会であります。

かつて日本の子供達は、ユニセフのお世話になったことがあります。そういう時代を経て、日本の社会情勢も大きく変革し今日の繁栄を迎えています。そういう中での社会福祉協議会の存在は重要であります。少子高齢化が進む都市社会において、安心と生きがいのある町づくりをめざし、地域の暮らしに光をあて関係団体、関係機関と連携し、その福祉力を大いに高めていただきたいと思います。

日野市赤十字奉仕団としましても社会福祉協議会とのお付き合い、その長い歴史の中で協力させていただいています事に深い喜びを感じております。

共同募金運動では、街頭募金活動を通して市民の皆様のあたたかい心に触れることができ、歳末たすけあいバザーにて大勢の方の結束した力は本当に素晴らしいと感じることができました。

また、「みんなといっしょの運動会」では、障害を持った方々と一日汗を流し、交流を持つことができました。

今後とも社会福祉協議会の地域力を大いに発揮され、法人化50周年を契機に、尚一層発展される事を心から祈念申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。



日野市老人クラブ連合会
会長

平 出 實

この度、日野市社会福祉協議会が法人化50周年を迎えましたことを心からお祝い申し上げます。

社会福祉協議会は、福祉の中核機関として、長年に亘り地域福祉の推進のため貢献され日野市の発展にご尽力いただいておりますことを心から感謝申し上げます。

私も日野市老人クラブ連合会の会長として様々な活動に参加しておりますが、近年、社会を取り巻く状況が目まぐるしく変化し、人口の減少、少子高齢社会を迎えており、地域福祉に対する期待が年々高まっていることを肌で感じています。

日野市社会福祉協議会の策定した第4次地域福祉活動計画の理念に掲げる「みんなで作る豊かなまち日野～助けられたり助けたり～」子どもからお年寄りまで、ともに地域で支えあい、安全・安心、元気に暮らせるまちを目指すことを切に願っています。

また、暮らしを支える在宅福祉サービスによる支援や多様化する住民ニーズを捉えたボランティアセンターの充実など、これからの日野市を支える福祉をさらに前進していただくことをご期待申し上げます。

日野市老人クラブでは「健康」「友愛」「社会貢献（奉仕）」「支えあい」を掲げ、元気で生きがいのある人生を目指しています。

例えば、1. 地域の一人暮らし・弱者を対象としたドア・ツー・ドア形式の買い物ツアー、2. 小・中学校の登校時の見守りと校門前での挨拶運動、3. 介護施設・保育園等を施設訪問して声掛けとともに歌や踊りを披露するボランティア活動などを行っています。

これからも地域に根差した活動を行うことで、日野市老人クラブ連合会と日野市社会福祉協議会が深い絆のもと、地域社会に貢献し、日野市の地域福祉がますます発展していくことを祈念し、お祝いのことばといたします。

各 係 の 事 業

総 務 係

総務係は、職員の福利厚生や財務、生活福祉資金に関するもののほか、理事会・評議員会、事業計画・報告書の作成などを担当しています。また、社会福祉法をはじめとする各種福祉関係法令を順守した組織運営を図るための調整をしています。

●ひの社協だより

社協の活動をより多くの市民に知っていただくために、年4回、市内全域に新聞折込み、公共施設などで配布しています。近年では、平成20年（190号）にキャラクター「ひの助」の名称公募、平成23年（202号）からカラーページを取り入れるなど、地域の皆さんに愛着をもっていただける記事づくりを心掛けています。



●生活福祉資金の貸付相談

所得の少ない世帯や障害者世帯などに対し、「生活の安定」と「経済的自立」を図るため、福祉資金の貸付相談を行っています。貸付後の支援として、継続的な家計相談や債務管理に努めています。平成29年度から、新たな貸付事業として、「ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業」も始まりました。

●コミュニケーション支援（手話通訳者・要約筆記者の派遣）

聴覚に障害のある方に、手話通訳・要約筆記者を派遣し、意思の疎通が円滑に行われるように支援します。平成28年4月の「障害者差別解消法」の施行により、障害のある方への合理的配慮が示され、聴覚障害者には「手話通訳や要約筆記」などを行う情報保障が求められるようになりました。そのため、手話の普及や手話通訳者を養成する「手話講習会」にも期待が寄せられています。

●福祉のつどい

日野市の地域福祉の発展のため、広く地域の皆さんにボランティア活動やご寄付・社協会費などの協力をお願いしています。福祉のつどいは、こうした活動に協力をいただいた方々への感謝の気持ちをお伝えする式典（表彰式）です。



日頃のご厚志に感謝をもって！



●日野市地域福祉活動計画の策定・推進

日野市の福祉のまちづくりの発展のため、地域の皆さんとともに地域福祉活動計画を策定、推進しています。平成27年4月には「みんなでつくる豊かなまち日野～助けられたり助けたり～（平成27年度～平成31年度）」を基本理念とした第4次地域福祉活動計画を策定しました。



●日野市内社会福祉法人ネットワーク

平成28年4月1日「社会福祉法」の改正により、社会福祉法人に「地域における公益的な取組み」が責務とされました。市内社会福祉法人の連携や情報交換を図り、「社会福祉法人のつながり」により、効果的な地域貢献活動が図られるよう、平成29年度に「日野市内社会福祉法人ネットワーク」を設置しました。

「自分の町を良くするしくみ。」 共同募金運動への協力

都道府県単位で全国一斉に行われている共同募金運動。「赤い羽根共同募金」「歳末たすけあい募金」2つの募金運動の普及啓発に努めています。



赤い羽根共同募金

高齢や障害者施設、保育園など民間の社会福祉施設が行う事業に配分（助成）しています。

○街頭募金活動…運動期間（10月～12月）に街頭募金活動を実施しています。近年、少年野球チームや中学、高校生にボランティア活動を呼び掛けるなど、福祉教育の一面としても行っています。



昭和42年（日野市民生委員）



現在（日野市赤十字奉仕団・日野第三中学校ボランティア部）



歳末たすけあい募金

社会福祉協議会が行う地域福祉活動やボランティア活動の財源とするほか、地域の防災・災害対策などの取組みにも活用されています。

○歳末たすけあいバザー・・・12月第1日曜日に日野市民生児童委員協議会と日野市赤十字奉仕団と共催で開催しています。収益金は、「歳末たすけあい募金」としてお預かりしています。



各 係 の 事 業

地域支援係

地域支援係は、地域に出て市民の皆さんと顔を合わせながら、地域の様々な課題に対応していきたいと考え、市内を4つに分けて地域担当制での業務を行っています。

併せて、「介護予防による地域づくり推進員」と「第1層生活支援コーディネーター」の委託を市から受け、介護予防や、高齢者に暮らしやすいまちづくりにも地域の皆さんと一緒に取組みながら地域を支援していきたいと考えています。

●ハンディキャブ事業

歩行が困難な方が外出する際に、車椅子に座ったまま乗り降りできる福祉車両での送迎をしている事業です。

あらかじめ登録することや利用の際の予約は必要です

が、運転協力者の皆さんの協力により、7台の車を運行し、通院・買い物・趣味のための外出など、様々なご要望にお応えしています。



運転協力者の皆さん

運転協力者の声

空いている時間を利用して協力していますが、喜んでいただけてやりがいを感じます。自分の健康にも気をつけるようになりました。

利用者の声

運転手さんが皆さん親切で、よくしてくださいます。安心して利用できています。

●地域介護予防活動支援事業

1. 介護予防教室の実施

高齢者が、元気で活動的な生活を継続していただけるよう身体を動かすことを取り入れた介護予防教室を市内各所で実施しています。

2. ひの健幸貯筋体操の普及

平成29年度から、「ひの健幸貯筋体操」の普及を行っています。3人以上のグループを対象に、3カ月程度は職員と一緒に体操を行い、その後皆さんで継続していただいています。

活動を支援していただく「ひの筋サポーター」の養成も行います。



介護予防教室



ひの健幸貯筋体操



3. 日野市介護予防活動団体の登録支援

住民主体で介護予防になるような運動・体操等の活動をしている団体に登録団体になっていただき、webサイト「Hi Know!」や広報ひの・ひの社協だよりで紹介しています。

●地域活動支援（サロン等支援）

地域で助け合いやサロンなど住民同士の交流を中心に活動をしているところを支援しています。個別に相談に応じている他、年に1～2回、「交流ひろばCafé」を実施し、団体同士の交流の機会も作っています。

また、地域福祉活動助成（サロン活動助成）を、皆様から頂いた会費を原資に行っています。



交流ひろば
Cafeの様子



サロンマップ



●障害者施設職員交流会部会

市内の障害者施設職員が交流できる機会として、月1回程度定例で集まっている会の事務局です。情報交換や学習の場を設けたり、施設見学をしたりしています。



歳末たすけあいバザーで焼鳥コーナーの協力

各 係 の 事 業

ボランティア係 ボランティアセンター

●ボランティア・コーディネート

ボランティアセンターに寄せられる依頼や相談には、ボランティア経験豊富な「窓口相談員」が対応します。長年培った知識やスキルを活かし、市民目線のアドバイスやコーディネートを行います。



コーディネート風景



●連携事業

日野市内の多様な個人・団体と連携し、各種イベントを開催しています。

①まちづくり市民フェア（共催）

日野市内の市民活動を「知って」「体験して」「参加しよう」！パネル展示やステージ発表を通して市民活動の魅力をPRします。



ボランティアセンターの出展ブース

②みんなの遊・友ランド（協力）

障害のある子もない子もみんなで風船遊びを楽しもう！

大学生を中心に多くのボランティアが活躍するイベントです。



準備風景



風船プールで遊ぶ男の子とボランティア

③多摩地区6大学との連携事業

多摩地域の6大学（中央大学・明星大学・首都大学東京・東京薬科大学・法政大学・実践女子大学）と連携し、①災害時の募金活動②防災プログラムの実施③イオンモールでのボランティア活動発表④市民活動団体を巡る学生バスツアーの開催など多くの事業を行っています。



イオンモールにおける募金活動



●夏の体験ボランティア

毎年開催、夏休みの一大イベント！
小学生から大人までどなたでもボランティア活動にチャレンジできます。

高齢者施設・障害者施設・保育園など多くの受入団体のご協力のもと、参加者が出会い、学び、成長する機会を提供しています。



マジックボランティア
マジックを練習して高齢者施設で発表しよう！
協力は日野マジッククラブの皆さん。



点字のメニューをつくってみよう
視覚障害のある人も楽しみながら料理を選ぶように…
「珈琲はうすあんず村」の点字メニューを作成しました！

●傾聴ボランティア

相手に寄り添い耳を傾けてお話を聴く「傾聴」活動。

高齢者施設を訪問する「施設傾聴」と一人暮らしの高齢者など個人宅を訪問する「在宅傾聴」を行っています。傾聴ボランティア養成講座を受講された約200人のボランティアが、今日も市内各地で活躍しています。



傾聴ボランティアのお二人と
利用者の鈴木さん

写真左：利用者の鈴木さん 「ボランティアさんの訪問が楽しみでね。毎月カレンダーに印をつけてお待ちしているんですよ」

●介護サポーター制度



日野市在住の65歳以上の方を対象にしたボランティアポイント制度。

高齢者施設で活躍する元気なシニアの皆さんを応援します！

高齢者施設で麻雀を楽しむ
ボランティア

●Hi Know! (ひのう)

日野市内のイベント・サークル・市民活動団体を紹介するポータルサイト。

魅力的な人や場所取材する「まち記者」を養成し、市民目線の情報発信を行っています。

知れば知るほど
日野市って
良いところだなあ



気軽に誰でも
なれますよ！

取材をしている
自分も楽しい！

各 係 の 事 業

在宅サービス係

主に自宅で生活をしている高齢者及び高齢者世帯の皆さんが、住みなれた自宅で暮らし続けられるよう在宅福祉サービスを提供しています。

●在宅高齢者ケアサービス事業

市内にお住まいの高齢者の日常生活を応援するため、広く市民の皆さんの協力を得て実施している「住民参加型」のサービスです。サービスを利用する高齢者には利用会員として、活動して下さる方には協力会員として登録いただき、会員相互の寄り添いながらの支援を行っています。

◆サービス活動

買い物に行きたいけれど、足が悪くて買い物に行けない、病院へ行く際に1人での外出に不安がある。掃除が今までのようになくなってきた…。など、職員が相談員として利用会員のご希望を聞き、活動内容にあった協力会員



をご紹介します、市民同士の助けあいの活動として親しまれています。

季節によって飾る絵を変えるお手伝いも



◆交流事業

高齢者が「ちょっとおでかけ」できるような内容を企画し、会員相互の交流を深めています。簡単な手作業をしながらおしゃべりを楽しんだり、大勢での食事を楽しんだり、時には貸切りバスで遠出をしてみたり。行く先々で協力会員のやさしさや気配りが見られ、和やかな雰囲気交流しています。





◆研修事業

住民参加型で、自分のできることをできる範囲で行うのが協力会員の活動。しかし、利用会員の希望にこたえるために、研修もしっかり行います。新しい情報を取り入れたり、活動の悩みを解消したり。そこは同じ協力会員の立場だからこそ話し合える場でもあり、相談員の持っている情報を提供する場でもあります。



●高齢者食事宅配サービス事業

在宅の高齢者に栄養管理された昼食弁当をお届けすることで健康状態を保つとともに、安否確認を行っています。利用される方の食の好みやアレルギーなどの配慮を行い、直接手渡しをすることで孤立感の解消を図ります。顔色など体調の変化を確認しながら、高齢者の在宅生活を支えています。



食事とともに元気も届けています

●介護人材育成研修事業

市内の高齢福祉サービス事業所・障害福祉サービス事業所で働く職員を対象としたスキルアップと定着を目指した研修会と、広く市民にも向けた講演会を実施しています。事業所それぞれの研修とは異なり、参加することで他事業所の方と横のつながりをつくる場にもなっています。



介護実技研修



ケアマネージャー向けスキルアップ研修

各 係 の 事 業

権利擁護係 権利擁護センター 日 野

権利擁護センター日野は、平成21年10月の開設以来、認知症や障害等により判断能力が不十分な方を支えるため、「地域福祉権利擁護事業」から「成年後見制度」の利用支援まで、一貫して切れ目のない支援をおこなっています。



地域福祉権利擁護事業を支える生活支援員の皆さん





●地域福祉権利擁護事業を支える生活支援員

定期訪問による見守りや日常的金銭管理等の支援をするのは、生活支援員の皆さんです。生活支援員は同じ日野市に住む市民として、ご利用者様の人生にとって特別な時間を、ともに歩み、ともに支える、そんな心の通った支援を心がけています。



生活支援員の訪問前の打合せ

●地域福祉権利擁護事業について

認知症、精神障害、知的障害などがあり、福祉サービスの利用や金銭管理に不安がある方を支援しています。

【サービス内容】

- ①福祉サービス等の利用の相談や支払い支援
- ②郵便物の確認や市役所に提出する書類作成のお手伝い
- ③生活費をおろしてお届けしたり、公共料金・税金などの支払い
- ④権利書や通帳など大事な書類を貸金庫でお預かり

まずはご相談ください



ひの助

●成年後見制度に関して

- ①説明会や講演会を開催し、広く市民が身近に後見制度を知る機会を作っています。
- ②申立手続きや書類作成の支援など、制度利用について個別相談をおこなっています。
- ③関係機関や専門職との顔の見える関係作りのため、ネットワーク会議を開催しています。
- ④自治会やサークルなどの各種団体に出向き、制度の説明をおこなっています。
- ⑤市民後見人の養成をするとともに、後見監督を受任しています。

●権利擁護センター運営委員会

地域の弁護士、司法書士、医師、社会福祉士などの専門職、障害者施設や地域包括支援センターなどの専門機関、行政により構成された運営委員会を設置しています。委員会は専門的なアドバイスやセンターのチェック機能などを担っています。

各 係 の 事 業

しごとサポートひの

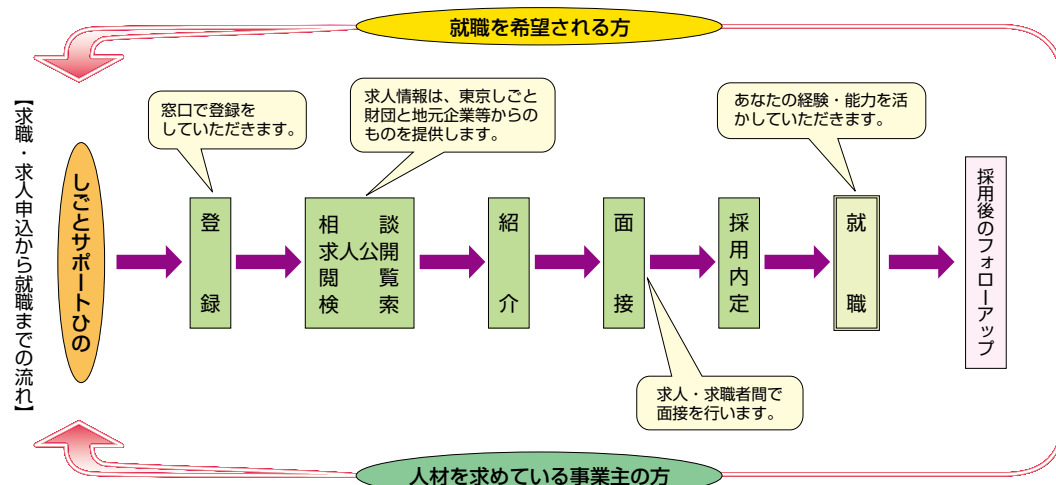
「しごとサポートひの」では、厚生労働大臣の許可と東京都・日野市の支援を受けておおむね55歳以上の高齢者の方々を対象に就職支援を行っています。



警備員・清掃
調理補助など
多種多様の求人あり

求職者閲覧コーナー

- ☆働く意欲のある高齢者就職支援セミナー、就職相談や求人紹介を行っています。
- ☆65歳以上の方も元気で再就職にチャレンジして働いています。
- ☆高齢者の求職・求人は「しごとサポートひの」にご相談ください。



●就職を希望される方

- ☆自分の経験や知識を生かして働きたい
- ☆仕事が見つからない
- ☆新たな再就職をチャレンジしたい
- ☆働いて生活にゆとりを持ちたい
- ☆フルタイムでもパートでも、とにかく働きたい



高齢者就職支援セミナー

●人材を求めている事業主の方

- ☆高齢者の豊富な経験や知識を持ち即戦力で働くベテランを採用したい事業主の方
- ☆元気な高齢者を採用したい事業主の方
- ※高齢者を一定の基準を満たし採用する企業に雇用開発助成金が受けられる場合もあります。

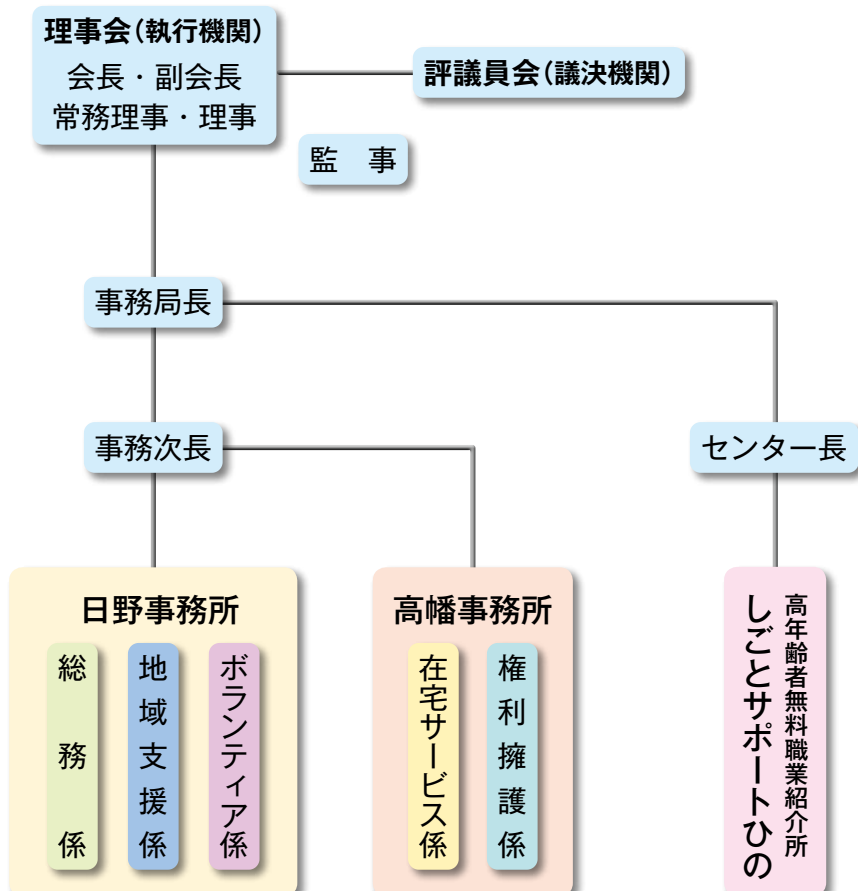


歴代会長

		氏 名	在職期間
昭和42年	～昭和54年	古 谷 梅 雄	12年
昭和54年	～昭和58年	清 水 緑之助	4 年
昭和58年 6 月 1 日～平成 5 年 5 月31日		花 輪 音 三	10年
平成 5 年 6 月 1 日～平成 7 年 5 月31日		川 嶋 博	2 年
平成 7 年 6 月 1 日～平成11年 5 月31日		山 崎 彰	4 年
平成11年 6 月 1 日～平成23年 5 月31日		福 島 敏 雄	12年
平成23年 6 月 1 日～平成25年 5 月31日		鈴 木 俊 夫	2 年
平成25年 6 月 1 日～現在		奥 住 日出男	

組 織 体 制

(平成29年4月1日現在)



近年のTopics!

人を育み、福祉のまちづくり

福祉のしごと相談会・見学会 ―これからの福祉を支える人を応援します―

近年高齢者や子どもを支える福祉の現場においての人材不足が社会問題として挙げられます。

福祉人材の育成や確保することを目的としたこの事業は、東京都福祉人材センターやハローワークと連携・協力して実施しています。参加者には、直接担当者からの話を聞いたり実際に職場を見学したりする機会を設けています。実際に働く「職員の声」を聴くことで、人と人とのつながりを大切にする「福祉のしごとの魅力」を感じとっていただけるよう企画・運営しています。



介護人材育成研修事業 ―専門職のレベルアップを支援しています―

市内の高齢福祉サービス事業所や障害福祉サービス事業所で働く職員を対象として、「育成」、「定着」、「スキルアップ」を目的に、無料で参加できる職種別・階層別の研修会を実施しているのが介護人材育成研修事業です。

この研修の特長の一つに、異なる事業所で働く専門職が一堂に会して学び合えるというところがあります。

例えば介護実技研修では、施設職員と訪問介護員（ヘルパー）、生活介護の指導員と療養型病院の介護スタッフなど、普段は異なる事業所の異なる現場で業務に就いている専門職同士がグループで介助技術をトレーニングすることで、技術向上だけでなく、互いの職種理解を深める機会にもなっています。



他職種連携が求められる現在、日々の介護を実践している専門職同士がつながり高め合い、このまち全体の介護のレベルアップを目指しています。



手話講習会 ―聴覚障害者との交流や障害に対する理解を深めていきます―

平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行されたことを背景に、「障害のある人に対する情報保障」のため、手話通訳者の設置が進められています。

手話講習会では、手話技術の向上とともに聴覚障害(者)の特性や歴史を学び手話通訳者を育成する「通訳養成コース(基本&応用実践クラス)」と、当事者との交流を通じて楽しみながら手話を学ぶ「コミュニケーションコース(入門&基礎クラス)」を設けています。

この講習会の受講をきっかけに手話通訳者として活動するほか、手話講習会の講師・助手として手話に関わってくださる方もいます。近年、障害を持つ方を取りまく環境は変わりつつあります。これからもすべての方が安心して暮らすことのできる地域づくりを目指していきます。



開講式(受講生の皆さん、緊張の様子)



通訳養成コース(技術以外に通訳になるための心得も学びます)



手話マーク

近年のTopics!

地区社協の取組み ～地域の手カラ 無限大∞～

地区社会福祉協議会（みんなでつくるぶらっと協議会）

地区社協って何？

日頃の生活の中で、皆さんが気になっていることはいろいろあると思います。その中には、皆さんで考え、話し合っ、解決に向けて取組んでいけることもあるはずで。

地区社協はこうしたちょっとした個人的な問題から防犯・防災など町のことで、「みんなでいっしょに考える」そんな時間と場所を共有する機会を作ることを目指しています。

具体的には、地域で暮らす皆さんが、少しでも暮らしやすい地域になることを目指して、例えば、防災・防犯の活動、支えあいや見守り活動、講演会・研修会の開催、話し合いの場やサロンづくり、イベントの開催、広報紙の発行などを行うものです。

地区社協の愛称「ぶらっと協議会」とは…

ぶらっと協議会の「ぶらっと」は、地域のプラットフォームの役割を果たす組織という意味と、誰でも気軽に「ぶらっと」立ち寄れる場所という意味を併せてつけられました。

その名の通り、地域の皆さんに、気軽に参加していただけたら幸いです。

平成27年度に日野市で初めて誕生した「みんなでつくるぶらっと協議会南平（通称「ぶらっと南平」）」

—南平地区社会福祉協議会—

—経緯—

東京都社会福祉協議会の「課題発見・解決志向型の地区社協設置・運営モデル事業」に手を挙げ、平成26～27年の2か年にモデル事業を実施することになったことで、日野市での取組みが始まりました。





「ぶらっと南平」でなにをするの？

まずは話し合いから！

「ぶらっと南平」は、地域の皆さん、自治会、自主防災会、民生児童委員、福祉施設、学校関係者、地域包括支援センター、市民活動団体、行政など、地域に関わる様々な立場の人が集まって、地域について一緒に考えていくための場です。その中で、地域で取組みたいことを、できることから一つずつ実践していきます。

「ぶらっと南平」では、既に、南平地区の自治会長の懇談会を開いたり、防災の活動、イベントの開催や、学校行事や市民フェアなどへの参加協力、地域の困りごとへの支援、福祉や防災の講座、子どもの居場所づくり、広報誌の発行など、幅広い活動に取り組んでいます。

「ぶらっと南平」は南平地区における地域福祉課題の発掘とその解決を推進するとともに、地区の活性化と住みやすいまちづくりを目指すことを基本方針としています。その基本方針のもと、①伝える（広報・啓発活動）、②つなぐ（ネットワーク化）、③続ける（継続と活性化）の3つを柱として事業を推進しています。



チャリティコンサート



南平小まつり



家屋清掃のお手伝い



設立総会



認知症サポーター養成講座



市民フェア

ーぶらっと協議会と日野市社会福祉協議会の関係ー

「みんなでつくる豊かなまち日野」を目指して、身近な地域での支え合いを進めるために、地域支援係を中心にぶらっと協議会の活動を支援していきます。そして人とのつながりを大事にして全市内に展開して行く予定です。

近年のTopics!

みんなといっしょの運動会 ～スポーツを通じて広がる障害者の社会参加～



やっと取れたね

市内福祉施設・団体の障害のある利用者の健康づくりや施設間の交流を図ることを主な目的に、平成8年度から始められた「みんなといっしょの運動会」。

この運動会では、大玉送りやパン食い競争などの競技を、赤白チームに分かれて、障害がある人もない人もいっしょに汗を流して、楽しく障害者との交流を図り、障害者の社会参加の輪を広げています。

体力の増進はもとより、運動会に参加する障害のある方の意欲や笑顔が引き出されることもあって、当事者をはじめ福祉施設からも毎年開催を楽しみにしていただいています。

この運動会は、日野市民生児童委員、日野市赤十字奉仕団、地元企業、福祉団体、ボーイ（ガール）スカウト、学生など老若男女を問わず、多数のボランティアの協力を得て実施しています。



ゴールを目指してガンバレ！



元気なライオンズクラブメンバー

中でも、ボランティア活動は難しいものじゃないという見本を見せてくれたのが、東京日野ライオンズクラブのメンバーの皆さんです。資金援助だけでない活動が他に類を見ないということで、ライオンズクラブの上部団体が視察に来るほどです。メンバーの皆さんは、ボランティアと身構えず身体に障害のある方々にも、身体を動かし運動する喜びを感じて頂きたいという考えで参加してくれています。

近年は、近隣大学にボランティアセンター



学生だって地域のチカラ



が開設されたこともあり、「学生だって地域の力」を合言葉に、イベントのお手伝いだけでなく、企画運営から大勢参画してくれるようになりました。学生ボランティア側のモノの見方と、社会が求める学生の姿の融合により、参加した学生たちが活動での経験を活かして、卒業後も社会で活躍する姿が見られるようになりました。

2020東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、車椅子バスケットボール日本代表選手やブラインドサッカーの日本代表強化選手をお迎えし、デモンストレーションや体験会を行いました。競技に感動した方が、スポーツボランティアとして活動したり、東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに登録するなど、地域のみならず日野市外へもボランティア活動が発展しています。



見えているかのようなドリブル



軽々とシュートを決める



日野市内社会福祉法人ネットワークの協力事業として、障害以外の分野の社会福祉法人の参加や、地元企業が社会貢献活動の一環として参加されるなど、文字通り「みんなといっしょの運動会」として、運動会のみならずボランティア育成のイベントとして実施されています。



頼りになります社会人ボランティア



17施設団体・21協力団体
総勢650人が一堂に会して

近年のTopics!

地域住民と共につくる防災・減災の取組み ～人とのつながりが命を守る力になる～

東日本大震災への支援活動

東日本大震災では、多くの尊い命を失いました。日野市社会福祉協議会では、全国の社会福祉協議会とのネットワークの中で福島県内の社会福祉協議会への災害派遣協力や、日野市内のNPO法人水と緑の環境ネットワークの会と協力し合い、宮城県気仙沼市大島への災害ボランティア派遣をはじめ、様々な支援活動を行いました。



みんなでつくる日野の防災プロジェクトの取組み

東日本大震災での支援活動を教訓として、日頃からの地域ネットワークの大切さを改めて考えることになりました。そのことから2012年に市民と各種専門機関、有識者、市民らと「みんなでつくる災害ボランティア・センタープロジェクト委員会」を設立しました。設立の当初は、災害ボランティアセンターのマニュアルづくりを中心に会議を進めましたが、2014年から、名称を「みんなでつくる日野の防災プロジェクト」と変えて、より広く防災減災活動について取組むようになりました。





災害ボランティアセンター立ち上げ訓練

日野市社会福祉協議会は、大規模災害時に日野市等と連携をして災害ボランティアセンターの設置運営を行います。災害ボランティアセンターは、日頃の社会福祉協議会の地域福祉活動を活かし、地域住民や全国から応援に駆け付けるボランティア・関係団体と共に復旧復興そして生活再建やコミュニティ再建などに努めます。



日野市民でつくる防災・減災シンポジウム

「みんなでつくる日野の防災プロジェクト」では、市民の皆さんに防災・減災についての知識を身につけて頂くと共に、緩やかなネットワークをつくるべく、「日野市民でつくる防災・減災シンポジウム」を開催しました。2年目からは、市民から有志を募り企画運営を共に行い、3年目には、すべて市民有志や関係機関で結成された実行委員会になりました。例年多くの方が参加されており、日野市の防災減災に対する意識向上への一助となっています。



防災を考えながら地域をつくる「イザ！カエルキャラバン！」の取組み

2012年から地域住民の皆さんと共に防災減災活動に取り組んでいます。

神戸にあるNPO法人プラスアーツが開発した「イザ！カエルキャラバン！」は、1995年の阪神淡路大震災を教訓に子どもから大人まで幅広い世代の方が、楽しみながら防災知識を身につけることの出来るイベントです。「イザ！カエルキャラバン！」は、地域の方々が主役になり、開催までの過程の中で絆を深め、イベントを通して顔の見える関係ができていきます。日野市内保育園、小学校、PTA、自治会、総合防災訓練などで多く開催し、地域のつながりをつくっています。



近年のTopics!

市民後見人が活躍しています



市民後見人は同じ地域に住んでいることが最大の魅力です。

私がそばにいることで、ご本人はもちろん、遠く離れたご親族の方、施設職員の方などにも信頼・安心していただいております。

(市民後見人・中村真佐子さんより)

成年後見制度利用が必要な方が増えている一方で、頼れる親族がない方も増えています。成年後見制度を支える担い手として、身近な地域できめ細やかな支援ができる「市民後見人」の活躍が期待されています。

日野市社会福祉協議会では、平成22年度に、市民後見人養成講習を行い、平成23年度3月に市民後見人第1号が誕生しました。市民後見人が、適切な後見業務を行えるよう権利擁護センター日野が成年後見監督人に就任し、市民後見人の活動を支援しています。



市民後見人・伊藤操子さんによる定期報告の様子

成年後見制度とは…

認知症・知的障害・精神障害などにより、自分ひとりでは契約や財産管理をすることが難しい方に対して、本人の意思を最大限に活かしつつ、権利と暮らしを守る制度です。

成年後見人等は、本人の希望や生活状況にあわせ、福祉・介護・医療サービスの手配や契約行為、財産管理等をおこないます。



成年後見制度のネットワークが広がっています

成年後見関係機関ネットワーク会議

‘成年後見制度’にかかわる様々な立場の方々と、毎回テーマを決めて、活発な意見交換をしています。

やっぱり顔の見える関係がいちばん！

成年後見関係機関ネットワーク会議は、平成23年度から行っています。



多くの方に知っていただくために ～説明会や講演会の開催



日野市登録手話通訳者の会での勉強会

成年後見制度や地域福祉権利擁護事業を、多くの方に知っていただき、必要な方が利用できるように、地域に積極的に向向しています。小さな集まりにも行きますよ♪



福祉関係者のための成年後見制度活用セミナー



50年のあゆみ



*は現在は廃止

昭和36(1961)年度	自治会を通じ日野町社会福祉協議会の設立・会員の呼びかけ、南多摩社会福祉協議会から分離独立、会員1,630人で <u>日野町社会福祉協議会設立総会開催 ①</u>
昭和37(1962)年度	社協の活動の第一歩として世帯更生運動による貸付開始
昭和41(1966)年度	福祉センター中央会館完成
昭和42(1967)年度	4月1日 <u>社会福祉法人 日野市社会福祉協議会として発足 ②</u>
昭和43(1968)年度	地区婦人福祉連絡協議会（多摩平・日野・七生）開催*、 学童クラブ（さくら・ふたば）開所*
昭和44(1969)年度	東社協による出張高齢者就労あっせん実施
昭和45(1970)年度	高齢者の教養向上のためのことぶき大学を市と協力し開催、ボランティア教室開始
昭和46(1971)年度	日野市社会福祉協議会設立10周年記念大会、学童クラブ（つくし）開所*
昭和47(1972)年度	学童クラブ（百草・さくら第二）開所*
昭和48(1973)年度	友愛訪問事業開始*
昭和49(1974)年度	<u>ボランティアセンター開設 ③</u>
昭和50(1975)年度	<u>第1回福祉バザー開催 ④</u>
昭和51(1976)年度	ボランティアニュース発行開始、ボランティアのつどい開催、車椅子・録音機貸与開始
昭和52(1977)年度	事務局を中央福祉センターから市役所2階へ移動
昭和54(1979)年度	事務局を市役所2階から中央福祉センターへ移動
昭和55(1980)年度	市民福祉まつり開催（青年フェスティバルと同時開催）*
昭和59(1984)年度	<u>第1回日野市民福祉と健康のつどい開催 ⑤</u>
昭和60(1985)年度	福祉まつり単独開催となる*、部会発足（老人・障害者・婦人・児童）
昭和62(1987)年度	法人化20年 20周年記念大会開催
平成 3(1991)年度	福祉関係団体便覧発行、雲仙普賢岳火山助け合いチャリティー及び募金活動
平成 5(1993)年度	市役所内売店運営開始
平成 7(1995)年度	日野おでかけ福祉マップ発行
平成 8(1996)年度	<u>青空の下みんなと一緒に運動会開催 ⑥</u> 市内各所でふれあい会食会（ミニミニふれあいのつどい）始まる*
平成 9(1997)年度	地域福祉活動計画策定、ふれあいのまちづくり事業開始（母子家庭夏休みレクリエーション・福祉バスふれあい号運行*・ハンディキャブ運行 ⑦） ・おはようお元気ですか訪問*・高齢者日常生活用具貸出）
平成10(1998)年度	市受託事業開始（ガイドヘルパー派遣*・手話講習会・手話通訳者派遣・中央福祉センター管理運営・在宅介護支援センターの運営*）、ひとり親家庭親子キャンプ開催*、出張福祉体験講座（車椅子・高齢者疑似体験・ブラインドウォーク）開始、あってよかった福祉の便利帳発行
平成11(1999)年度	日野市福祉事業団から在宅3事業移管（在宅高齢者ケアサービス事業 ⑧・高齢者食事宅配サービス事業・高齢者見舞電話事業*）、介護保険制度に向けた指定居宅サービス事業開始*、 <u>地域福祉権利擁護事業開始 ⑨</u> ふれあいのまちづくり事業開始（ミニデイサービス*）、 <u>ボランティアセンター窓口相談員配置 ⑩</u>



①日野町社会福祉協議会設立

町の急速な発展や社会情勢の急激な変化に対応する各福祉施策の拡充の要求に応えるため、当時の民生委員協議会、町議会、町内自治会等の有志による社協の単独結成を目指す情熱のもと、総員79名の発起人会での議論を経て、それまで2町2村でつくられていた南多摩社会福祉協議会から分離独立し、日野町社会福祉協議会が設立されました。第1回目の誕生です。

②社会福祉法人 日野市社会福祉協議会として発足

市制施行以来の懸案となっていた法人化取得の機運が高まり、設立委員会での準備を経て念願だった法人格を取得するに至りました。第2回目の誕生です。

③ボランティアセンター開設

この年の12月、机一つでスタート。ボランティアセンターに寄せられるニーズとボランティア登録者の仲介をする貴重な役割を担いました。現在はこの活動もボランティアの手で行われています。

④第1回福祉バザー開催

現在は毎年、12月の第1日曜日に歳末たすけあい活動の一環として開催されている歳末たすけあいバザーの1回目。12月ではなく11月3日に開催され、収益金は福祉団体等に配分されました。

⑤第1回日野市民福祉と健康のつどい開催

現在、毎年行われている福祉のつどいの原点となるもので、福祉推進協力員を中心に事業報告や講演・ゲーム等の盛りだくさんのプログラムで第一小学校を会場に開催されました。

⑥青空の下みんなと一緒の運動会開催

現在、社協の大きなイベントの一つとなっている「みんなといっしょの運動会」の1回目。市内の障害者施設・団体の方と子どもから高齢者までが一堂に会し、障害・年齢・性別を超えてともにふれあい理解し合うという理念は現在にも脈々と受け継がれています。

⑦ハンディキャップ運行開始

現在、地域支援係の大きな柱となっている事業。高齢や障害等で外出が困難な方を目的地まで送迎するもので、運転ボランティア10人の協力のもと、2台の福祉車両でスタートしました。

⑧在宅高齢者ケアサービス事業開始

高齢のため日常生活に支援が必要な在宅の方に市民の参加と協力によって家事援助を行う会員制の住民参加型在宅福祉サービス。在宅サービス係の柱となっている事業で、福祉事業団では昭和62年度から実施されており、介護保険制度の開始を見据え事業移管されました。

⑨地域福祉権利擁護事業開始

判断能力が十分でない高齢者等に対し、福祉サービスの利用援助やそれに付随した日常的な金銭管理等の援助を行うことを目的に10月1日から事業を開始しました。当初は広域対応事業として、利用にあたり本人と多摩市社会福祉協議会が契約を締結する形態をとっていました。

⑩ボランティアセンター窓口相談員配置

この年の7月26日より、ボランティアセンター窓口には2人のボランティアを配置。市民参加により、市民からのボランティアに関する相談・調整・仲介を行うこととしました。

現在は経験豊かな総勢11人の市民の皆さんが窓口相談員として、エネルギーに日々活動をしています。



昭和41年11月19日
福祉センター中央会館 完成祝賀会



創立10周年 古谷会長の挨拶



訪問員も一緒におでかけ



会場を変え単独開催の頃



第1回は第一小学校で開催



実地調査や編集など
延べ800人の方の協力で完成



登録手話通訳者スキルアップ研修

平成12(2000)年度	日野市立病院内売店運営開始＊、ケアマネジメントセンター高幡開設＊、介護保険における訪問介護（ホームヘルプサービス）事業開始＊
平成13(2001)年度	広報ひの朗読テープ作成受託
平成14(2002)年度	傾聴ボランティア講座開催、中軽度知的障害者ガイドヘルプ事業受託＊、心身障害者ホームヘルプサービス事業受託＊
平成16(2004)年度	介護予防事業（認知症予防教室・転倒予防教室・失禁予防教室）開催
平成17(2005)年度	高齢者就業創出支援事業開始 ①…………… 日野市立病院内売店業務、直営から委託へ
平成18(2006)年度	第2次地域福祉活動計画の策定、ボランティア交流会開催
平成19(2007)年度	日野市障害者就業支援セミナー開催、ひのケアマネ協議会の事務局受任＊、日野市産業まつりに参加、地域型認知症予防事業開始＊
平成20(2008)年度	しごとパートナー養成講座開催、在宅高齢者ケアサービス事業20周年記念講演会実施
平成21(2009)年度	第3次地域福祉活動計画の策定、福祉バス「ふれあい号Ⅱ」運行再開＊、 権利擁護センター日野開設 ②…………… 日野市介護人材育成研修事業開始、日野市介護サポーター制度事業開始、 湯沢福祉センター管理運営事業受託＊
平成22(2010)年度	東日本大震災被災者支援活動、 <u>市民後見人養成講習開催 ③</u> ……………
平成23(2011)年度	しごとパートナー事業開始、「イザ！カエルキャラバン！」実施、 東日本大震災被災者支援活動
平成24(2012)年度	「日野市福祉のしごと相談・面接会」開催、 <u>みんなでつくる災害ボランティアセンタープロジェクト発足 ④</u> …………… 宮城県南三陸町、気仙沼市、岩手県陸前高田市視察、 東日本大震災被災者支援活動
平成25(2013)年度	災害ボランティアセンター立ち上げ運営訓練実施、Hi Know！プロジェクト開始
平成26(2014)年度	<u>第4次日野市地域福祉活動計画の策定 ⑤</u> …………… 福祉のしごと見学会実施、Hi Know！プロジェクト「まち記者」の養成実施
平成27(2015)年度	南平地区社協(みんなでつくるふらっと協議会南平)設立 ⑥…………… 「日野市民でつくる防災・減災シンポジウム」の開催
平成28(2016)年度	みんなといっしょの運動会（車いすバスケットのパラリンピアンを招聘）開催、 熊本地震支援義援金街頭募金活動、福祉のつどい＆ボランティア交流会合同開催
平成29(2017)年度	障害者及び高齢者団体等のバス借上げ補助事業開始、 <u>「ひの健幸貯筋体操」開始 ⑦</u> …………… 日野市生活困窮者等子どもの学習等支援事業受託、 日野市内社会福祉法人ネットワーク設立、法人化50周年記念式典開催

①高齢者就業創出支援事業開始

雇用情勢全般が不調な中、とりわけ高齢者の雇用については、より厳しい状況にあったことや、定年退職後も働く意欲のある高齢者の増加が見込まれることから、この年の8月1日、しごとサポートひのを開設しました。

②権利擁護センター日野開設

10月1日、地域権利擁護事業・成年後見制度を活用し、判断能力が不十分な方に対し、一貫して相談・支援するため、権利擁護センターを開設しました。現在の権利擁護係が形づくられました。

③市民後見人養成講習開催

少子高齢化の急速な進行により、親族による後見が期待できないケース等の増加に備え、市民後見人養成講習を行ないました。同時に養成講習修了者をバックアップするため、法人として後見監督を行うための体制整備を行ないました。現在、この養成講習を受けた2人の市民後見人が活動しています。

④みんなでつくる災害ボランティアセンタープロジェクト発足

災害ボランティアセンターの運営体制確立や災害に強い地域づくりのために必要なネットワークを形成することを目的にプロジェクトを発足しました。東日本大震災の被災地の視察や日野市防災計画作成にあたり提言を行いました。翌平成25年度には災害ボランティアセンター設置運営マニュアルを完成。その後も防災・減災シンポジウムを開催するなど、社協全体の防災・減災への取組み強化へとつながっています。

⑤第4次日野市地域福祉活動計画の策定

社協を中心に地域住民や社会福祉団体、事業者が相互に協力して地域福祉を推進することを目的とした活動・行動計画です。計画期間は平成27年度から平成31年度までの5年間で、基本理念を「みんなでつくる」豊かなまち日野～助けられたり助けたり～」としています。基本となる視点は以下のとおりです。

- ◇視点1 とともにみまもる
- ◇視点2 ともにつくる
- ◇視点3 とともにそだつ

⑥南平地区社協(みんなでつくるぷらっと協議会南平)設立

東京都社会福祉協議会の「課題発見・解決志向型の地区社協設置・運営モデル事業(平成26年度、27年度)」の指定を受け、地域の生活課題や福祉課題を見つけ出し、皆で共有し、解決するための協議の場として、市内で初めて南平に地区社協が設立されました。社協はその設立、その後の運営について支援しています。

⑦「ひの健幸貯筋体操」開始

市から受託している地域介護予防活動支援事業の一つの取組みとして、高知県高知市の「いきいき百歳体操」をもとにした「ひの健幸貯筋体操(ひの筋体操)」を開始しました。この体操は、地域の皆さん自ら介護予防に取組んでいただくために、日野市が推奨しているもので、今後も地域への普及・啓発に努めていきます。



ふれあい号 高幡不動尊で安全祈願



被災地で市民ボランティアが瓦礫の分別



個人宅を片付ける市民ボランティア



JCと災害時相互協力協定 締結式



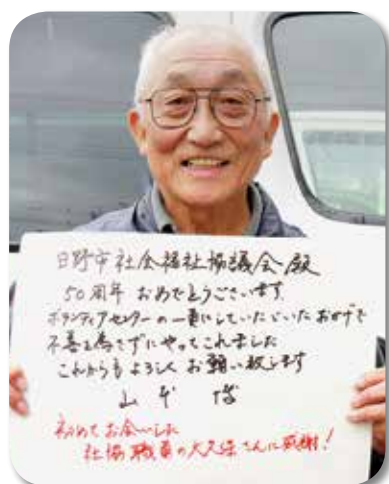
関係者が被災した学生も募金活動に参加



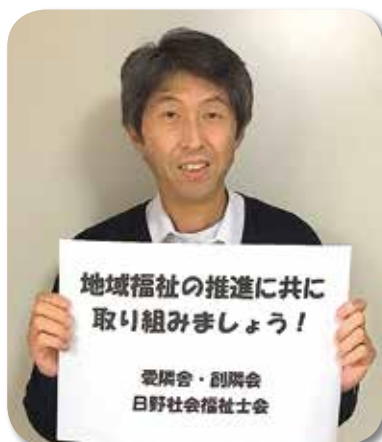
DVDが完成

みんなのメッセージ

長年社協とあゆみを共にされてきた皆さん、日頃から深いかかわりのある皆さんより、たくさんの“あったかいメッセージ”をいただきました。
皆さんの笑顔とパワーは社協の、日野の宝です！ご協力ありがとうございました。











現任期の理事・監事



ハンディキャップ協力者



ボランティア窓口相談員



生活支援員



日野市民生委員・児童委員協議会



日野市赤十字奉仕団



地域・施設・学生ボランティア



手話通訳者



配布ボランティア



職員集合写真

あ と が き

20周年の際に「日社協20年のあゆみ」を発行して以来の記念誌の発行となりました。

以前の記念誌を読み返してみると、社協第1回目の誕生である単独の社協結成にける人々の情熱がひしひしと伝わってきます。以来、時代の変化に対応し続けた先人達のたゆまぬ努力には頭が下がる思いです。

また、50年のあゆみを辿るなかで、地域の皆様をはじめ福祉関係団体の皆様、ボランティアの皆様等多くの方々に支えられ、助けられ、育てられて現在の社協があること、日々の活動ができていたことを改めて実感しました。

これからも「豊かなまち日野」をめざし、皆様と力を合わせて地域の課題解決に取り組んでまいります。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



日野市社会福祉協議会キャラクター「ひの助」

「ひの」という響きを入れて、子どもからお年寄りまで呼びやすく親しみやすい名前、日野市社会福祉協議会を市民の皆様により身近に感じていただこうと、このキャラクターが誕生しました。

◆写真提供（敬称略）

松林洋子 日野市郷土資料館 日野市市長公室 日野市立図書館 日野宿発見隊

社会福祉法人 日野市社会福祉協議会 法人化50周年記念誌

2018年3月

編集・発行 社会福祉法人 日野市社会福祉協議会
〒191-0011 東京都日野市日野本町7-5-23
☎042-582-2319

印刷 システム印刷株式会社

50th Anniversary

